

第2回平塚市文化振興委員会会議録

日 時：平成22年11月12日（金）13:30～15:30

場 所：平塚市民センター 小会議室

出席者：委員 9名（欠席1名）

石川幹夫委員、岩崎由紀子委員、片山興大委員、小中山彰委員長、
関本耕司委員、高田謙治委員、中野恵子委員、平野恵美子副委員長
森伸一委員（欠席 小野芳夫委員）

事務局 3名 文化・交流課長 担当職員2名

傍聴人 なし

配布物

1 第2回次第

2 第1回会議録

3 文化振興に係る会議等進行状況

4 文化振興に係る意見シート

5 文化振興指針に基づく施策検討結果

1. 開会

文化・交流課長より開会あいさつ

小中山委員長が進行

2. 会議録の確認

事務局から第1回平塚市文化振興委員会会議録の内容説明

質問、訂正なし

3. 議題

(1) 文化振興に係る会議等進行状況について

資料「文化振興に係る会議等進行状況」

事務局より説明

○平塚市の文化振興に係る3つの組織で検討すべき事項と、そのための会議の開催実績を示した表である。

○平成23年2月頃に第3回委員会を開催することを検討しているが、予算編成等不確定な要素があるため日程は保留といたしたい。

委 員 平塚市文化振興基金の活用方法が検討事項になっているが、基金の活用は23年度からという認識でよいか。

事務局 23年度からの活用予定である。

委 員 平塚市文化振興庁内検討会議、ワーキングとあるがどのようなメンバー構成か。

事務局 庁内検討会議は文化関連事業を所管する17課の課長、ワーキングはそれらの課の担当者等による組織である。

(2) 文化振興に係る意見シートについて

資料「文化振興に係る意見シート」

事務局より説明

○9月に各委員に作成していただいた本市の文化振興に関する意見シートをまとめたものである。

○平塚市文化振興基金の活用に関しての大きな方針として「人づくり」「場づくり」というキーワード、また有効なPR方法について意見をいただいた。それぞれの活用方法としての具体的な案や考慮すべき点などを記載していただいている。

○各委員により自由に記載していただいた内容をほぼそのまま編集している。

意見、質問等なし

(3) 文化振興指針に基づく施策検討結果について

資料「文化振興指針に基づく施策検討結果」

事務局より説明

○庁内検討会議・ワーキングで、委員会での意見を提示した上で協議してきた。意見シートも資料とさせていただきます。文化振興委員会と庁内検討会議・ワーキングで出された意見を事務局が事業案としてまとめた。

○文化振興基金の活用方法の案というだけでなく、今後の文化振興の方向性を示す案となっている。

○検討結果という名称の資料だが、内容はあくまで「案」であるので自由に御意見をいただきたい。

委員長 毎年300万円という予算を意識した上での具体的な意見交換となると、ハードの整備やまちづくりに関する項目についての協議は難しくなる。来年度からの活用を考えると囲碁の事業、人づくり、情報発信の項目について掘り下げていくとよいのではないか。

事務局 基金を活用することは「ひらつか協働経営プラン」の中で確定している。毎年300万円ずつという考え方より、10年かけて3,000万円活用するという、中・長期的な視野を持って協議していただけたらいいと思う。ハードに特化するとテーマも大きく、他課の業務に係る部分も大きい。

【人材バンクの構築について】

委員長 事業例にある人材バンクという言葉についてだが、「バンク」はその名のとおり銀行のように機能することが重要だと思う。銀行では小口の預金者が大勢集まり、大口の運用が可能になる。平塚のアーティスト等の人材を小口預金者と例えると、ひとりでは達成できないことを大勢が集まることで可能にすることに意義があるのではないだろうか。

委員 ぜひ早めに実現してほしい。現在、小学校や幼稚園にボランティアで音楽の専門家を派遣している。時間が合えば協力したいという人は探せば大勢いると思う。

委員 通訳・翻訳ボランティアの派遣をやってきたので、バンクというイメージは良く理解できる。以前、イベントで音楽を演奏してくれる人を探して苦労したことがあるので、アーティストのバンクがあったらとても助かると思う。

委員長 ただのデータベースという以上に、「バンク」として機能しなければいけないだろう。

委員 例えば講演会をやりたいという場面があっても、誰に頼めばよいかわからない。人づてであったり、過去の事例の踏襲ということになりがちである。誰をバンクに登録するかというところが難しいと思う。選別する作業も必要になる。

委員 社会教育課に講師の一覧表があり、問い合わせにも応じて紹介してもらえる。

委員 人材のデータとしては民間からも入手できると思うが、身近、安価という点と地域の人材という点が大事である。

委員長 講演の講師やアーティスト等、異業種の人材も活用できるという機能も大事ではないか。

事務局 コーディネートという業務がデータを活かす。先ほどの通訳・翻訳ボランティアもコーディネーターの存在によって機能していたと思う。

委員長 コーディネートだけでなく、その人材を活かす企画のプランニングも担うことになるかもしれない。

委員 とてもいいアイデアだと思う。個人情報管理になるので行政が主体になることが良いと思う。

- 委員長 プロの登用ということも可能か。こういうものの立ち上げにはプロの助言を入れると良いものができる。基金を活用してもよいだろう。
- 事務局 可能だと思う。現在、平塚市ホームページに文化情報ネットワークというものがあり、文化振興と生涯学習の情報を同じデータベースを検索できる仕組みになっている。また、市民活動団体のリストがあり、団体の情報を閲覧することもできる。
- 委員長 該当する団体が見つかって、その後の調整の窓口をどこかがやってくれるのか、というところが課題だろう。行政にそこまでできるのか疑問だが、どういう団体が説明が聞けて、行政がその団体との調整までしてくれるととても助かると思う。
- 委員 平塚音楽家協会には幼稚園等から出張コンサートの依頼などがあるが、ただ派遣すればよいのではなく、相手が何を望んでいるか聞いた上で内容を考える。コーディネートの難しさは、相手が望むものを理解して提案できる技量があるかどうかという点だと思う。
- 事務局 情報があり、それを検索ができるという状態で、若干でもコーディネーターが入ると入らないのとでは同じ事業を行っても結果が大きく異なってくるだろう。ニーズと情報をつなぐことがコーディネーターとして本当に大事な役割だと感じた。市民センターにはいないが、ホールの事業にもアートディレクターのような存在がいて、コンサートでも目を引くような、全く違ったものになってくる。
- 委員 コーディネートすることで人材を育てるという意味もあると思う。
- 委員長 こういうものを構築することはとても生産的で長期に効果をもたらすものだと思う。
- 委員 いい案であると思う。福祉の分野では、社会福祉協議会にボランティアセンターというものがある。ボランティアしたいという人が登録しており、活用したいという人が利用できる。同時にボランティアの育成、啓発、コーディネートをやっており、裾野の拡大という効果も大きい。社会福祉協議会が果たしている役割を、文化ではどのように位置づけるかが大きな課題になる。9月の議会で質問が出たが、平塚市文化振興指針ができ、市として積極的に文化振興に取り組むという姿勢であるのに、社会教育課と文化・交流課にまたがって文化事業が行われているため、方向性がわかりにくいという内容であった。窓口を一本化し、戦略的に文化振興に取り組んだ方が良いのではないかという意見をいただいた。例えば平塚市文化連盟を所管しているのは社会教育課だが、様々な活動内容の団体が加入しており、そこを通して市民の文化活動と深く関わっていくことが大きな効果をもたらすのではないかという話も出た。
- 委員 上演された催しが同じでも、準備していく過程に市民関わったものと、主催者が企画し上演されたものとは効果が違うと思う。舞台を創る過程において市民の意見を反映できる橋渡し役のコーディネーターがいると効果が大きいと思う。裾野の底上げにもなるだろう。
- 委員長 裾野を広げることも事業の目的だと考えると、プロセスを拡充することが効果を高めるということに大変同感である。
- 委員 資料では、人材バンクの事例の説明に「庁内」でのデータ共有とされているが、出ている意見では庁内ではないところでの活用へと発展していると思うがどうか。
- 事務局 本日の資料はあくまでこれまでの意見からまとめた案であるので、内容は確定したものではない。委員会の意見に基づいて修正していく。
- 委員 以前、教育委員会の催し物の際のことだが、社会教育課主催の中央公民館でのコンサートと、別の会場での文化財団主催のコンサートがあり、同じ日に重なってしまったことがあった。どちらもクラシックで、それぞれが別に企画していたものだった。

委員 庁内の連携ということも今後の課題の一つ。説明した庁内検討会議に入っている 17 課には社会教育課も文化スポーツまちづくり振興財団も入っている。連絡を密にし、今後の連携に活かしていくと良いだろう。

委員長 10 の事業案が出ているが、これをもっと圧縮したり、いくつかの事業をまとめたりして重点的に取り組むものを提案するということでもよいのか。

事務局 結構です。

【囲碁の事業について】

委員長 囲碁の事業の例もあるが何か意見はあるか。

委員 財団として囲碁普及事業を市から委託を受けている。事業案に木谷實九段殿堂入り記念事業があがっているが、どの程度具体性があるのか。

事務局 基金活用のPRも兼ね、基金活用初年度にふさわしい記念事業をやりたいと考えている。あわせて、上級者をさらにレベルアップさせるような囲碁教室に新たに取り組み、今後につなげるスタートとしたい。将来指導ができるような人材を育てることも有効だと考える。当然予算も必要と認識している。財団がこれまで培ってきたノウハウ、日本棋院との人脈等もあるので、この事業については財団と連携、協力をお願いしたいと考えている。

委員長 囲碁のまちづくりということを振興の軸にしていくとなると、囲碁のポピュラー化も重要ではないか。囲碁ゲームの開発や、歴女、山ガールのブームに続く囲碁ガールなどが出てきても面白い。

委員 囲碁のゲーム商品は売られており、星のプラザにも設置している。棋力にあわせて自分で設定して対局もできるようになっている。イベント時に設置してもよいのではないかとされたことがある。もっと気軽に楽しめる囲碁という面もあってもよいのではないかと思う。

委員 学校にも囲碁クラブがないところもあるようだ。まちづくりという点では全体に普及していないといけない。

委員長 まちを碁盤の目に見立て、通りに名前をつけることもできるのではないか。

委員 囲碁のタイトル戦の対局を誘致したりするのはかなりお金がかかるのか。

事務局 実は毎年、平塚で女流棋聖戦の第一局を開催している。

委員 小中学校囲碁大会は教育委員会主催で行っている。全国レベルの事業としては囲碁まつりがあり、プロ棋士 80 名以上が参加して、全国から囲碁ファンが集まっている。日本棋院の理事は現在木谷門下生が多い。色々な取り組みを続けているが、平塚がもっと上手にPRをしないとイケない。

委員長 街の中に囲碁の言葉を浸透させていくと良いのではないか。通りに名前をつけるなど。そういうこともひとつのPRになると思う。

委員 昨年度木谷實九段の生誕 100 周年を記念して北口バスターミナルのところに囲碁のまちひらつか記念塔というものが設置されている。

委員 小中学校囲碁大会は去年が第 1 回目の開催だった。学校対抗でおこなっており、3 名 1 チームで出場という形式である。優勝トロフィーも出している。昨年度は財団主催で行っており、第 2 回から教育委員会主催になった。

委員 学校の代表者が出ているのか。

委員 そうだと聞いている。全校から出場者が出てくるようになるといいだろう。

委員長 宣伝するとなったら方法はいろいろあると思う。生活に近いところに囲碁を浸透させていくことも効果的だと思う。

委員 書道がすごく盛り上がっている。囲碁甲子園みたいなものができたら盛り上がるのでは。学校対抗ということなら可能ではないか。

委員長 囲碁のまちづくりを地道にいろいろな方法で取り組んでいくことも大事だと思う。

委員 おまんじゅうや最中もすでにある。地道なPRはある程度続けている。木谷記念館基本構想というものがかつてあったと思うが、現在どうなっているのか。

事務局 新文化センター基本構想があり、木谷記念館はそこに併設という計画となっている。頓挫してしまっただけではない。見附台地区の活用という計画の中に位置付けされ、公民館、文化センター等の複合施設として、まちづくり事業部がとりまとめて庁内で研究している。

委員長 囲碁の事業案はこれでよいか。または木谷實九段に関する事業に限らない、一般的な囲碁振興を提案した方がよいか。

委員 囲碁文化の振興は木谷實九段の功績が根底にある事業であり、完全に木谷九段の名前から切り離すことは難しい。

委員 すでに様々な囲碁事業があるので、受賞記念を冠にして、完全な新規事業ではなく既存事業を拡充するというので良いと思う。

【アーティスト支援について】

委員 かつて、アーティスト支援の事業としてオーディションを開催し、平塚と、隣接する地域の若手音楽家を募集してコンサートを開催した。100名くらいの応募があったが1回で終わってしまった。毎年とは言わないまでも続けていけば励みになると思う。または、会場の使用料が高いことは、展示も含め発表の場を求めている若手の人たちにとって負担になるので、無料で会場を使える機会を与えてあげるだけでもいいと思う。費用をそれほどかけずに支援する方法があるのではないかと思う。

事務局 実施方法、対象となる方の選考方法には工夫が必要だと思うが、支援方法の一つとしては有効だと思う。

委員 1回で終わってしまったのは何か理由があったのかもしれないが、それを乗り越えてもやる価値はあると思う。

委員 以前市民センターでのカウントベイシーオーケストラの公演の時に、市民向けにパート別クリニックをやっていただきとても良かった。有名なアーティストの公演に合わせてやるといい。費用もそれほどかからないのでは。

委員長 屋根付きの設備が必要ということであれば、野外でも屋根をつければ発表に利用できる場所が増えるのではないか。

委員 総合公園、まちかど広場などでもちょっとしたコンサートを開く余地はないだろうか。

- 事務局 市民センターにリハーサル室がないことも音楽活動の制約のひとつになってしまっている。会議室では他の部屋への音の漏れを気にしなければならない。他館の視察をしてきたが、防音の練習室、リハーサル室が何室もあり、稼働率も相当高いと聞いた。そういうものがあれば、練習の場として最適だと思う。
- 委員長 小学校の空き教室が最近が多いのではないかと思うが、有効活用の方法としてどうか。
- 事務局 学校の空き教室利用には管理上課題が多いと聞いている。
- 委員 近隣住民が学校に騒音などの苦情を言うケースも多いらしい。時間外の利用で音がすることについては相当な理解が必要だろう。
- 委員 防音設備の練習室の設置に基金を使っても良いのであればそういうものも案のひとつになる。
- 事務局 表彰制度等についてはどうか。選考する基準の難しさや、対象者の検討などが必要になると思うが何か御意見はないか。
- 委員 スポーツ分野では個人、団体ともに顕彰の制度がある。文化にもあってもよいと思う。スポーツの方は大会参加への助成などで年間予算 270 万円である。子どもも大人も関係なく助成している。
- 事務局 これまでの意見では、表彰して終わりではなく、他の市民に活動を還元できる仕組みが構築できると良いというものもあった。
- 委員長 予算が限られているので、効果を考えて優先順位をつけることも必要だと感じた。そういう意味では他の事業の方が順位は高い気がしている。
- 委員 文化面において、功労者表彰のようなものは平塚にはないようだ。
- 委員 文化連盟の会員であっても、活動が個人の趣味の域を出なくてもよいとしている人が多いように思う。せっかく伝統芸能に携わるのだから、その素晴らしさを伝え、もっと普及的な活動をしよという意識を持つと良いのだが、そういうものが足りないと感じている。
- 委員 「参加することで満足」という市民の方たちがいることもいいと思う。公民館などでやる発表会を見ていると、それにも意義があると感じる。
- 委員長 いずれにしても、顕彰をするととなると、基準を定めることが難しい作業かと思う。賞金、助成金のようなものを出すかどうかも含め、もっと時間をかけて検討しなければいけないだろう。
- 委員 個人だけでなく団体も対象にするのか、何の分野で実施するか、選考基準やその成果の測り方など、決めなければならないことが相当ある。専門的な知識を持った人も関わって選考しなければならないということも考えると難しい。
- 委員長 他の表彰を受賞したことがある場合はどうするかなども想定しておかなければならないだろう。そういうことも考えると、労力を費やす点がとても多い。
- 事務局 地元で、地道に頑張ってきた人の背中を押すような制度が作れたらという意図で出た意見だった。時間をかけて検討する必要があることは認識しているので、中・長期的な展望の中でまた話し合っていきたい。

【その他】

委員 市内にはブロンズ像がいくつもある。何年か前に磨かれて綺麗になったものもあるが、まだ汚れている像もたくさんある。その後はそのような活動は続いているのか。せっかく置いてあるのに大事にされていないのは残念である。汚いまま放置されているのは文化度が低く見られても仕方がない。

委員 スターモール、青少年会館前等、何か所にもある。

委員 設置場所によって管理している部署が異なるので、管理が統一されていないのではないかと。公園の敷地にあるもの、道路にあるもの、市有地にあるものにより所管課がすべて違う。市全体としてそれらをどう管理していくかは話し合われていない。

委員 その像に想いをを持った市民が側にいなければ、大事にされていないのではないかと。その像に関わる文化を守り育てるといった市民の意識があれば、磨いて大事残そうという結果になるかもしれない。逆にただ設置されただけで、地元の人たちの心に根ざしていないものすたれていってしまうと思う。

委員 どの像も建てられた時は想いがあったと思うが。

委員 定着するには、その想いを強く伝え続ける人たちがいないとだめなのだろう。例えば村井弦斎氏の足跡も詳しく知ると、偉業を成した人だとわかり、それを伝えていこうという活動がある。

委員 かつては「村井公園」だった場所が、村井弦斎の活動に理解が深まり、最近になって「村井弦斎公園」となった。

事務局 この文化振興委員会は来年以降も継続する予定であり、委員会での協議の内容は市内の17課に伝えている。地域固有の文化振興ということで囲碁の木谷實九段はもちろん、村井弦斎を軸にするという声もあがっていたので、このような意見が出ていることも今後の市内での会議に活かしていけると思う。

委員 平塚の景観形成についての案も出ているが、なぎさプロムナードなどの平塚駅南口周辺に関することは個人的にとっても推進したいと思っている。平塚の海が大好きだというある外国人が、あまりにも汚れているので自主的にゴミ拾いをしているという話を聞いている。広報などでPRしたいと話しているので、ぜひ支援してほしい。

委員長 平塚の海までのアクセスは近隣では一番いいと思っている。もっと海までのアクセスを整備して、盛り上げていけたらいいだろう。今日意見を出していただきたい項目についていろいろな協議ができたと思う。他に意見がなければ、事務局でまとめをお願いしたい。

事務局 様々な御意見をいただいたので、文化・交流課でまとめて予算要求など事務処理を進めていきたい。来年度以降も、委員会で協議すべきことがあるので御協力をお願いしたい。

4. その他

今年度中2月以降に、第3回文化振興委員会の開催を検討している。日程は未定。

5. 閉会

以上